

# 第3回 地下鉄7号線中間駅まちづくり方針有識者会議

令和4年8月30日

さいたま市  
都市戦略本部 未来都市推進部

# ■ 会議の進め方

第1回  
7月8日（金）

第2回  
8月8日（月）

第3回  
8月30日（火）

第4回  
11月4日（金）

現地視察

①中間駅周辺を取り巻く環境把握

②地区の将来像

③まちづくりのテーマ

④まちづくりの方針

⑤導入機能

⑥土地利用配置方針

⑦基盤整備イメージ

意見とりまとめ

有識者会議後

パブリックコメント等  
意見聴取

「まちづくり方針」策定

## 1. 開会

## 2. 議題

- (1) 第2回会議の意見について . . . . . P. 3
- (2) 導入機能の整理について . . . . . P. 4
- (3) 「土地利用配置方針」と「基盤整備イメージ」について . . . . . P. 5

## 3. その他

## (1) 第2回会議の意見について

No.	意見要旨
1	目白大学は、社会貢献に関する部分で様々な取り組みを行っている。スポーツイベントでのケアブース運営や健康指導など、スポーツ関係で連携できる部分が多い。 〈飛田委員〉
2	コロナ後の人流は、狭い範囲になっていると推測される。身近な空間で生活が完結することが望まれるが、新駅周辺で完結することは難しいので、浦和美園、岩槻との役割分担の上で、新駅周辺に必要な導入機能を検討すべき。 〈瀬田委員〉
3	ウェルネス分野は、これからのまちづくりのテーマとして重要。走りたくなる、歩きたくなるようなまちづくりがよい。ランステの検討や、夜でもランニングが可能となるような安全面への配慮ができると良い。 〈上田委員〉
4	ロータリーは駅前だけでなくよいのでは。駅前に人の空間があり、そこから他の交通に繋いでいくような作り方が大事。機能分担に関し、「多面的」というのは、何でもあるという意味ではなく、ここにしかない個性があると捉えるべき。公共交通やモビリティなど、まちづくりの範囲外の交通のつながりについても言及すべき。 〈伊藤委員〉
5	新住民に対するイメージが強いが、現在の住民に必要な機能もイメージすべき。地区全体の約3割が公共空間になるので、ウォークアブルなどを意識した公共空間の利用についても方針の中に記載しておくべき。 〈大沢委員〉
6	中間駅周辺の個性として、サッカーは重要な地域資源。スポーツと保健、健康、医療などを一つにして、ウェルネス、ウェルフェア、ウェルビーイングといったイメージを持つ街を目指したらどうか。駅前に高速充電施設を設置すると、電気自動車を誘導できる。歩行者や自転車安心して移動できる安全な道路が必要。また、駐輪場に複合的な用途を持たせると良い。 〈飛田委員〉
7	どの様な人が来るのかまたは呼び込むのかを想定し、高齢者の方が、医療、健康に関して、安心して住めるような街であるとか、若い世代に対して、子育てのために必要な機能が十分であるかなど。ターゲットを想定し、機能を設定すべき。 〈久保田座長〉
8	中間駅に住む人は、「近居」から移り住むことが多いと思われる。そのため、ターゲット層は、若いファミリー世帯、その両親世帯と地元の方などが混在すると考えられる。また、サッカーなどスポーツに関心のある方が来ることも想定できる。 〈上田委員〉

No.	意見要旨
9	健康医療分野を重視する上では、安全に散歩ができることや、スポーツを行う上で施設が充実しているなど、基本的な条件が揃っているか、または何かで補えるのかを整理すべき。健康医療分野は、世界的にも注目をされており、健康のデータ活用ができれば産業のクラスターとしても重要な拠点となる。 〈瀬田委員〉
10	テーマの「職住遊」は、「学」も加えるべき。学び直しができるライフスタイルも必要。ターゲットとして高校生を入れ、寄り道する秘密基地的な場所があるのも良い。また、今の浦和美園に住んでいる世代が中間駅の戸建てに移り住み、その子供たちが美園のマンションを引き継ぐという流れがあると沿線の世代間連携になる。 〈大沢委員〉
11	交通空白地帯の交通結節を考えると、バスがロータリーに入ることになる。他地区で後からバスロータリーが飽和している事例をみると、中間駅の役割分担をした上で、交通結節機能についてあらかじめ拡張性を持たせると良い。 〈関東運輸局 交通企画課〉
12	駅前広場と交通結節機能のバランスや役割分担を考慮し、空間に収めることによって、さいたま市が初である新しい提案が、ゼロから設計することでできる可能性がある。 〈久保田座長〉
13	将来、近接する浦和美園や岩槻と競合する可能性がある。鉄道沿線を広い範囲で見たときに、まちびらきの段階とその後の段階でどのように人口維持ができるのか、まちづくりのテーマとして踏まえることも重要。 〈関東地方整備局 計画管理課〉
14	さいたま市では、自転車は重要な交通手段であり、新しいまちづくりをするには、自転車に配慮した道路などを念頭に置いたものにすべき。 〈上田委員〉
15	ターゲットを高齢者と子育て世代の両方に設定しても矛盾しない。介護施設と保育園が、交流できる仕組みがあって良い。スポーツや健康の街を積極的に発信することによって、お年寄りにも子育て世代にも優しい街ができる。 〈飛田委員〉
16	開業時に自動運転が実現した時のファシリティがうまくアジャストできるなど、ストーリー立てをしておくと、未来が描けるまちをイメージできる。 〈瀬田委員〉
17	「道路ビジョン2040」は、今から20年後を想定しているので、当地区の駅前広場などのイメージについて参考になる。 〈久保田座長〉

## (2) 導入機能の整理について

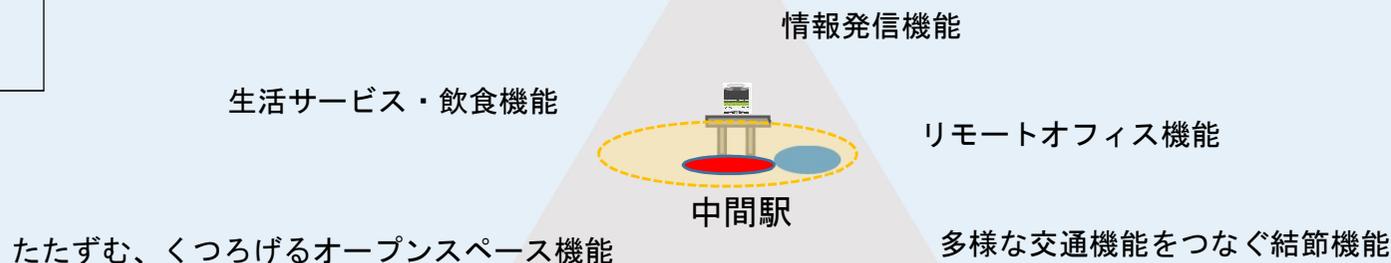
### 《導入機能と要素の整理》

	住		遊		学	職	
	居住	健康	にぎわい	研究	業務		
	中間駅駅前エリア	多様な交通機能をつなぐ結節機能	たたずむ、くつろげるオープンスペース機能	生活サービス・飲食機能	情報発信機能	リモートオフィス機能	
中間駅周辺エリア	フレキシブルなゆとり居住機能	歩行者ネットワーク機能	小商いや個店の充実	ウェルネス機能	産業業務機能		
地域資源エリア	新モビリティを導入した公共交通機能	緑豊かな地域資源の継承	農とのふれあい機能	産学公民連携コミュニティ機能	敷地内を含めた緑のネットワーク		
沿線連携エリア	自転車ネットワーク	スポーツ交流(埼玉スタジアム・サッカー)	文化交流	快適な通学の確保	快適な通勤の確保		

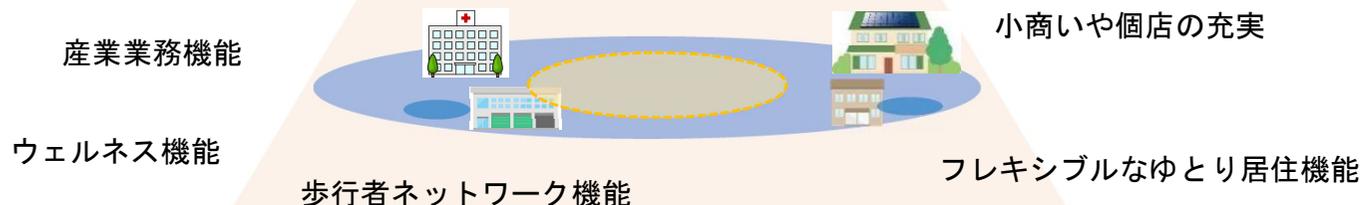
# (3) 「土地利用配置方針」と「基盤整備イメージ」

## 《空間イメージ》

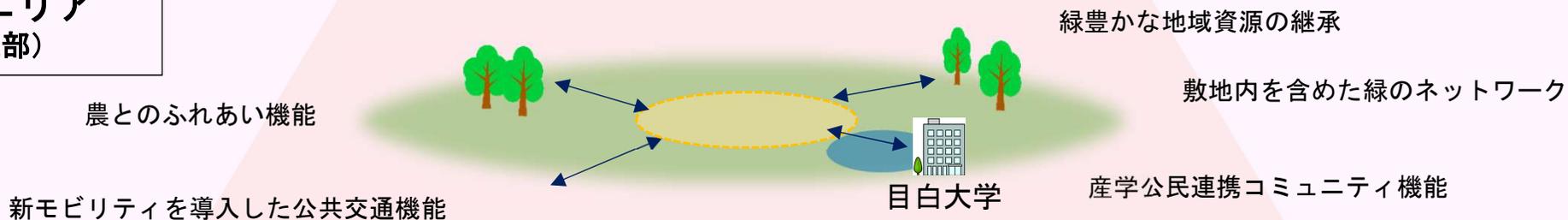
### 中間駅駅前エリア (駅前市街地)



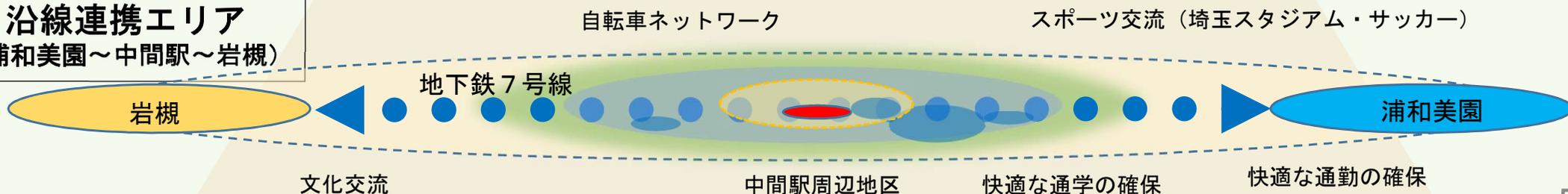
### 中間駅周辺エリア (まちづくり区域)



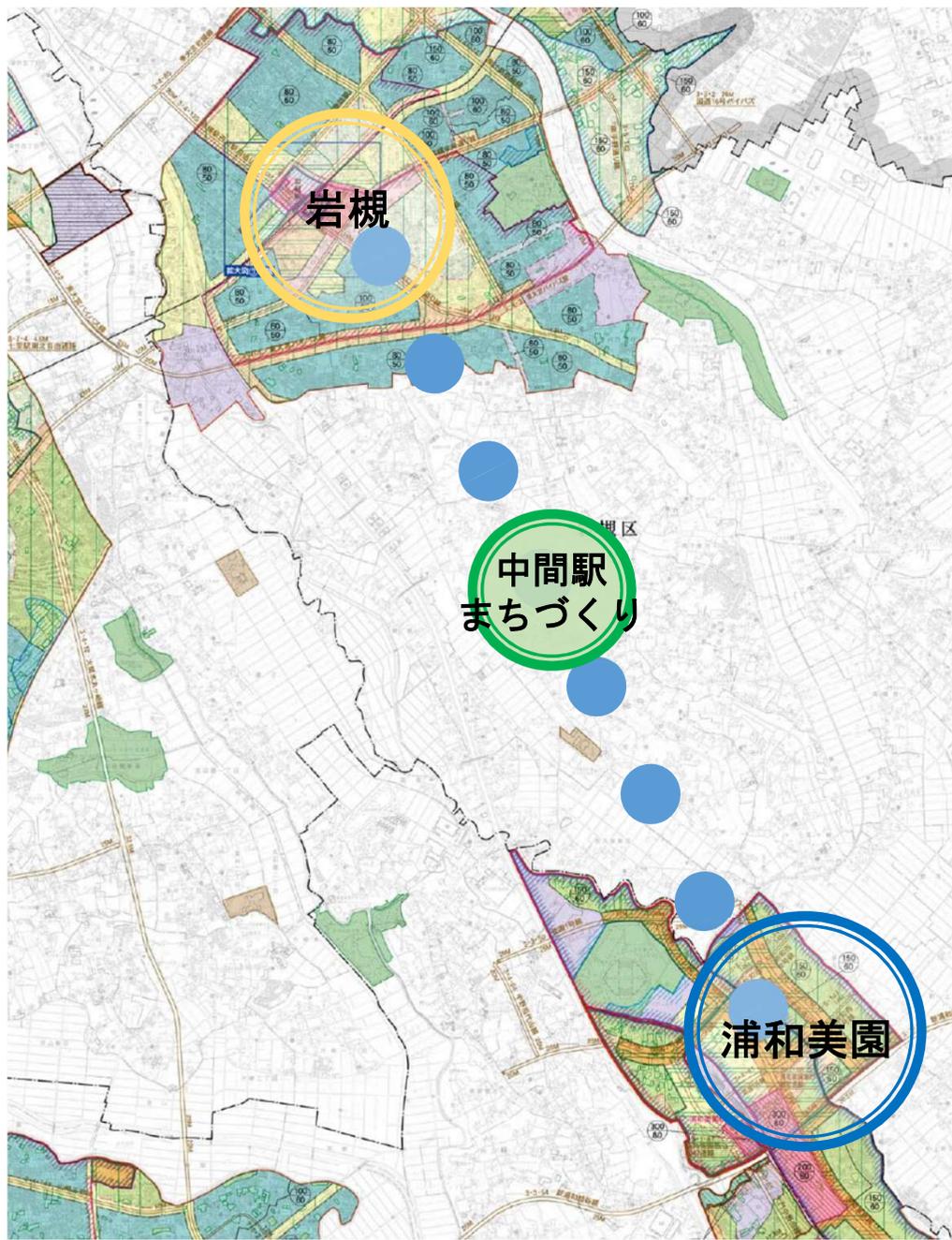
### 地域資源エリア (区域縁辺部)



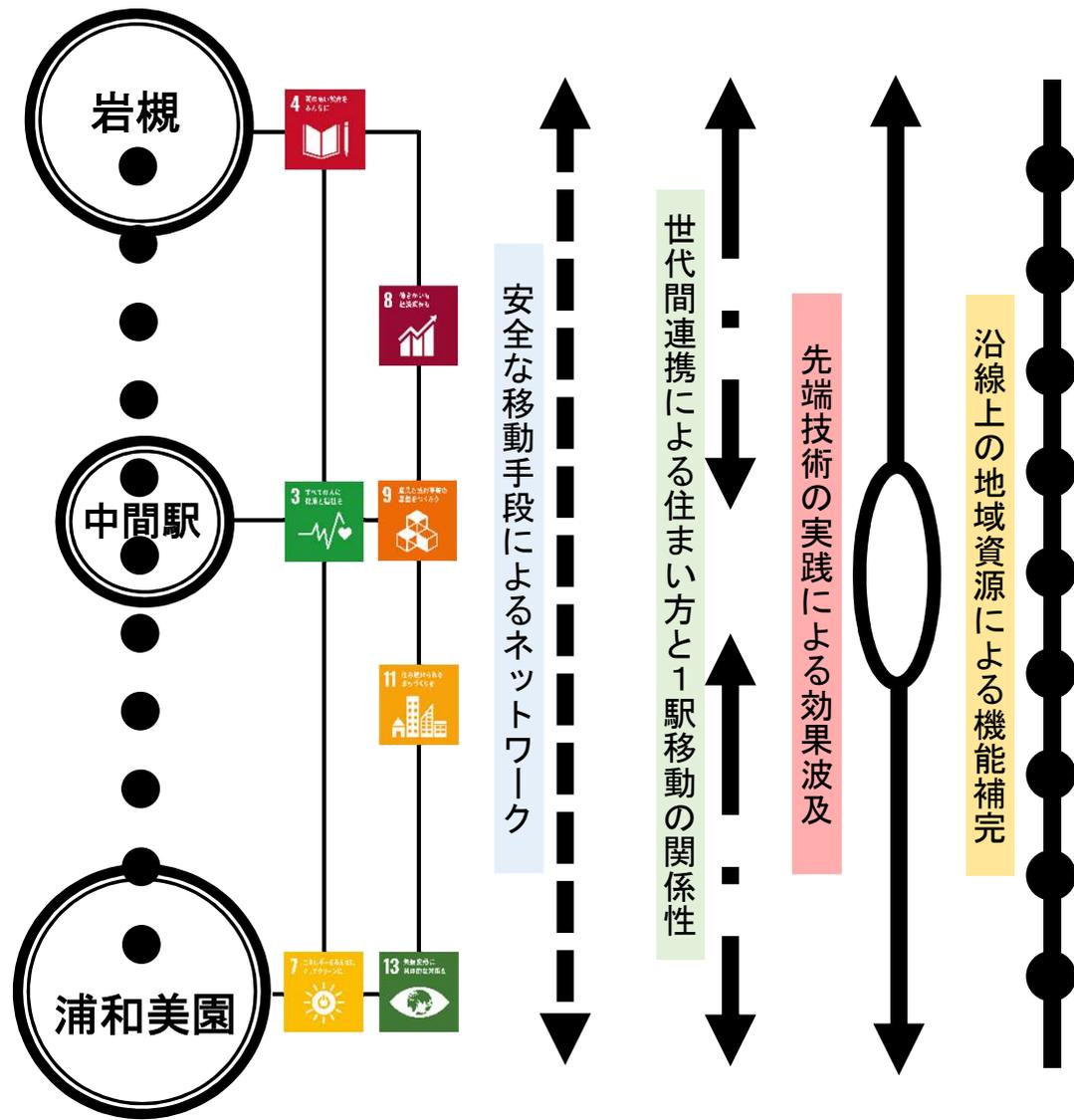
### 沿線連携エリア (浦和美園～中間駅～岩槻)



### (3) 「土地利用配置方針」と「基盤整備イメージ」



### 《沿線連携のサステナブルな都市構造》



# (3) 「土地利用配置方針」と「基盤整備イメージ」

## 《基盤整備イメージ》

